

1 活動名

環境政策先進地（横浜市）行政視察

2 調査の目的

(1) 本市における課題

地球温暖化防止へ様々な取組みを実施し一定の成果をあげているが、今後一層の展開を図る必要があります。そういった観点からすると新たな取組みということでは物足りなさがあります

(2) 調査の必要性

全く新しい取組み内容であるため調査の必要があります。

(3) 調査項目

VPP 事業概要について

3 調査地選定理由

横浜市は、環境未来都市ということで、温暖化防止へ精力的な取組みを実施しています。その中でも、日本初となるバーチャルパワープラント（VPP：仮想発電所）事業を推進中であり、大きな効果が期待されています。本市政策への参考とするため選定しました。

4 調査結果

(1) 実施日 平成 30 年 6 月 26 日

(2) 出席者 2 名 近藤晴彦 勝野智行

(3) 横浜市（VPP 事業概要）

これまで電気は、需要に合わせて、火力や水力原子力のような大型の発電所つくられ、需給バランスをとることが一般的でした。しかし近年、その他太陽光発電、蓄電池、電気自動車、ネガワット（節電電力）といったエネルギーソースの存在が大きくなってきています。これらを IoT を活用した高度なエネルギーマネジメント技術によって遠隔・統合制御し、あたかも 1 つの発電所のような機能を提供する仕組みがバーチャルパワープラント（VPP）といます。同市では、平成 28 年度、29 年度の 2 か年で事業性評価を実施し有用性が確認できたことから、今後市内の様々な地域に事業拡大の予定です。

(4) 成果・所感等

VPP 事業により負荷の平準化が可能となること、発電設備の維持費や設備投資等を抑えることが可能となること、発電コストの削減が見込まれます。一定の都市規模の大きさが必要と思われませんが、今後の技術進展によっては本市での可能性もありますので継続して状況を注視していきたいと思えます。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 浜松市と同様